

# 令和5年度 学校経営要綱

柳川市立柳河小学校

## 1 学校教育目標

**150年の伝統を誇りに「ふるさと柳河」を愛する子どもの育成**  
～豊かな心と知性をもった、心身共に健康で、たくましい子どもの育成～  
**合い言葉は…「一人ひとりが輝く！みんなの柳河小」**

### \*柳城中校区スタンダード

自分からあいさつができる 時間いっぱいそうじができる 最後まで話を聞く 相手を見て話す

## 2 学校経営の基本方針

- 日本国憲法，教育基本法，学校教育法をはじめとする教育関係諸法規，学習指導要領，福岡県学校教育振興プラン，柳川市教育大綱，柳川市教育施策，こども基本法に基づいて公教育を行う。
- 柳川市立小・中学校の共通実践項目の構想に基づいた教育活動の推進に努め，児童が安心して学び，保護者や地域に信頼されるとともに，地域とともに育てる学校づくりを目指す。
- 基礎的・基本的な内容の確実な定着と，児童の思考力・判断力・表現力の向上を図るために，「児童一人ひとりが根拠をもとに考え，自分の考えをかき，伝える」授業づくりを展開する。

## 3 経営理念

**【児童や教職員のよさを認め，鍛えて，伸ばす】**  
**「美点凝視」**

人間は短所も長所も併せ持ち，その能力は人それぞれ様々な個性をもっている。短所(欠点)を責めるのではなく，長所を活かす「美点凝視」を経営の基本方針とする。一人ひとりの児童や教職員の良さ(素質)を見つけ，自ら開花させるように働きかけることで，個々の持つ力を最大限に発揮できれば，学級力，学校力も高まっていく。教師の美点凝視の構えが児童にも広がり，自尊感情や自己存在感を高める原動力になるとともに，主体的に学ぼうとする態度を育てることにもつながるものであると考える。



**【柳川市共通実践】子どもをリスペクトする教師**

### ◇ 学校経営に対する校長の基本的方針

- ・「チーム柳河」と「凡事徹底」を合言葉にして，**重点目標の具現化を目指す。**
- ・プロの教師としての自覚と子どもへの深い愛情を持ち，**信頼される教師を育てる。**
- ・職員が心身ともに健康で，**それぞれの力を十分に発揮できる職場環境づくり**に努める。

そのために

- ★ コミュニケーションを基盤とした，一人ひとりの教職員に応じた適切な指導助言
- ★ 見通しをもち，効率的に仕事を進めるための**校務のICT化の促進(スズキ校務の日常的な活用)**と，作業の軽重化
- ・「不易」と「流行」を見極めた**教育の推進**
- ★ 先輩教師から学ぶ姿勢「伝統(良さ)の継承」と，若さを活かした柔軟な発想，創造性

#### 4 めざす学校像

- 子どもが学び、育ち合う学校……子どもが通いたくなる居場所のある学校
- 歌声や挨拶が響き合い、笑顔のあふれる学校
- 教師も専門家として互いに学び合い、高め合う学校
- 保護者・地域と連携する社会に開かれた学校

#### 5 めざす児童像

- 徳「心をはたらかせる子」(あいさつ、規範意識や友だちとの協力、礼儀、自己肯定感)
- 体「体をはたらかせる子」(ねばり強くやりぬく、基本的な生活習慣、健康・安全の自己管理)
- 知「頭をはたらかせる子」(学ぶ意欲、知識・技能の習得、友だちと学び合う喜び)

#### 6 めざす教師像

- 子ども理解に努め、児童・保護者・地域住民に信頼される教師 【人間性として】
- 自己研鑽に励み、子どもと同僚教師と学び合い、指導力を高め続ける教師 【専門性として】
- 責任感・使命感をもち教育目標の具現化に努め、協働性を発揮する教師 【組織性として】

#### 7 児童の実態

##### (1) 児童の学力・学習状況

項目	優れている点	伸ばしたい点
知識及び技能	・ 基礎的・基本的な内容についてきちんと定着している児童が多い。	・ 基本的な読む力 ・ 獲得した知識を活用する力
思考力・判断力 ・ 表現力等	・ 自分の考えを表現する力が向上した。 ・ 活動への取り組みやノートづくりが丁寧な児童が多い。	・ 多様な表現方法を活用する力 ・ 複数の情報を目的に応じて処理し、記述する力
学びに向かう力、人間性等	・ 意欲的で学び方が定着している児童が多い。 ・ 友だちのがんばりを認める意識がある。	・ 自ら課題を見付け、挑戦する態度 ・ 自らの学習を調整しようとする態度
家庭学習	・ きちんと取り組む子が多い。	・ 個別課題に応じた学習の充実 ・ 生活習慣、学習習慣のさらなる定着



##### 【教育課題】

- 学習規律の徹底、主体的な学び方の育成
- 「考える力」の基礎となる「書く力」の育成
- 自尊感情・自己肯定感の醸成
- 健康な体力の向上、目標に向かって主体的にやり抜く態度の育成

##### 【経営課題】

- 専門家として「授業力・学級経営力」の向上
- キャリアステージや個人課題に応じた研修の充実
- 主体的な働き方改革とタイムマネジメント
- 職員相互に学び合い、高め合う協働組織へ「チーム柳河」の醸成

##### (2) 全国学力調査の結果からみた課題と取組

令和4年度 全国学力・学習状況調査について(6年児童を対象に4月に実施)

###### ① 学力調査に関する結果の概要

###### 【国語】

- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよさを見付け書いてまとめる力が身に付いている。
- 漢字を文の中で正しく使ったり、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書いたりすることができている。
- 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題が見られる。

### 【算数】

- 整数の乗法の計算力や倍数についてなど、数と計算領域の理解がよくできている。
- 図形を構成する要素に着目して、ひし形や平行四辺形の性質や構成の仕方について理解する力が身に付いている。
- 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉えて考察する問題に課題が見られる。

### 【理科】

- 自然の事物・現象の理解や、提示された情報を複数の視点で分析したり解釈したりする力が身につけている。
- 問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録することに課題が見られる。

### ② 児童(生徒)質問紙に関する結果の概要

- 自分でやると決めたことは、やり遂げる力が身に付いている。
- 地域との関わりの中で、地域や社会をよりよくするために考えることができている。
- 家で自分で計画を立てて勉強する力に課題がある。
- 自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表することに課題がある。

### ③ 取組についての評価

#### 【教科に関する取組】

- 効果があった取組
  - ・ 日常的に自分の考えを書く活動を取り入れた授業改善を全校で推進
  - ・ 算数科の重点単元における少人数指導の実施
  - ・ 国語、算数で定着が不十分だった内容の重点指導
- 今後の学力向上に向けた取組
  - ・ 言葉に着目して登場人物の心情の変化を捉えさせる国語科の授業づくり、表現や交流活動を位置付けた授業づくりの推進
  - ・ 柳河タイム（個別支援・個別課題学習）の課題の内容の見直し
  - ・ ICTを活用して、定着が不十分な内容の復習問題に何度もチャレンジする場の設定

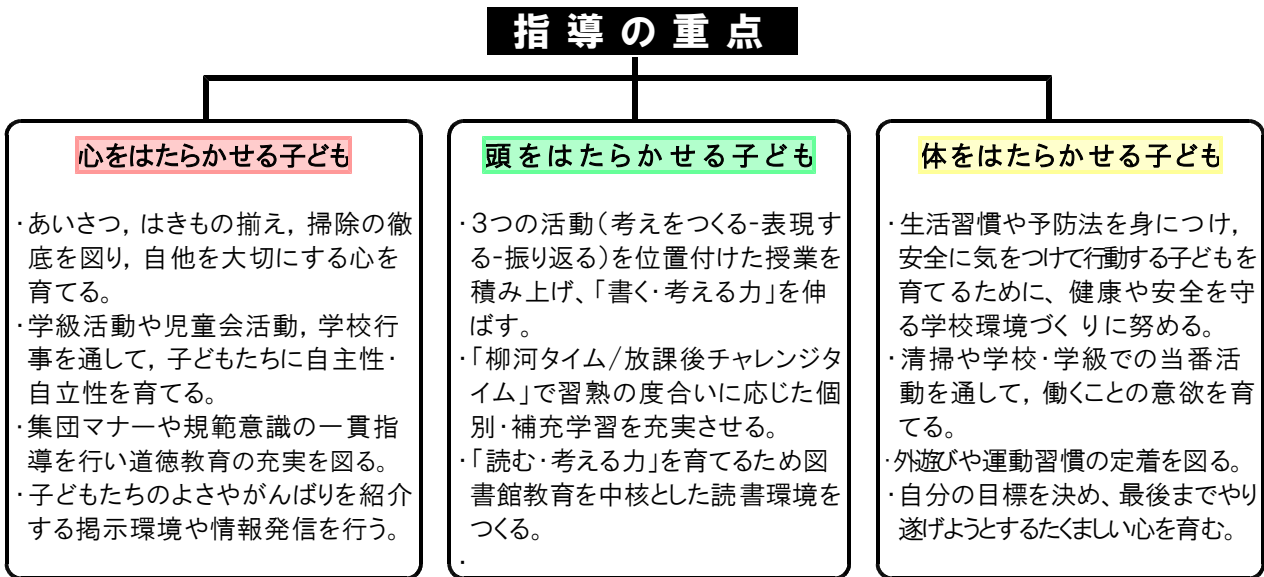
#### 【児童（生徒）質問紙の内容に関する取組】

- 効果があった取組
  - ・ 学年に応じて、家庭学習の時間の目標を立てさせて取り組む家庭学習強化週間の実施
  - ・ 全校での学習ノートプロジェクトの取組（ノート名人、全校集会での発信等）
- 今後の学力向上に向けた取組
  - ・ 予習を取り入れた家庭学習の宿題や、宿題スキルを活用した復習の充実を図る。
  - ・ 学習したことが生活場面や地域で活用できるような課題設定の場を設ける。

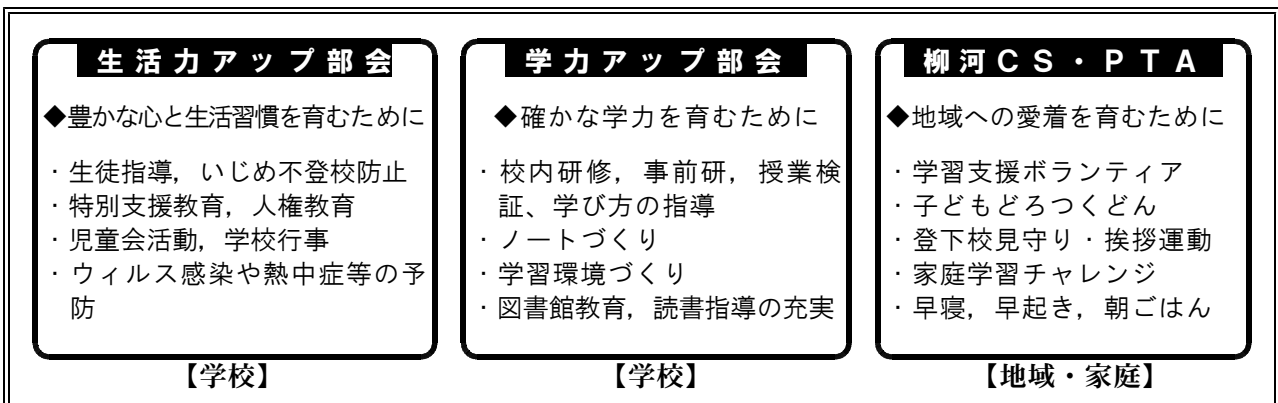
## 8 中期目標

基礎・基本を身に付け、自ら考え行動する子どもの育成

## 9 指導の重点と組織



## 指導の基盤となるチーム



## 10 本年度の重点目標

**自分の考えをもち、豊かに表現する子どもの育成**  
(自ら考え、正しく判断し、進んで行動できる子ども)

---

<評価指標 1 >                      標準学力調査：学級平均(前年度+1ポイント)  
 <評価指標 2 >                      自分の考えを書く・進んで発表することができる子ども    8割以上

### ○ 重点目標のとらえ

#### 「考えをもち」とは

・習得してきた基礎的・基本的な知識・技能, 根拠, 理由, これまでの経験をもとに課題に対して自分なりの考えをつくること, 書くこと。

「書く力」とは, 短時間で多くの文字が書けるという速記力や, 美しい言葉で表現できるという文章力のことではない。ここでいう「書く力」とは, 情報を取捨選択して, 目的に応じて要約したり順序立てて説明したりして, 論理的に思考して文章を書く力のことである。本校の児童の「書く力」に課題があることは, 全職員で行った「全国学力調査」調査問題を活用した分析によって明らかとなった。6年間にわたって学年段階に応じた「書く力」の育成が喫緊の課題である。

#### 「豊かに表現する」とは

・自分の思いを「相手」, 「目的」, 「場面や状況」に応じて適切に自分の言葉や表現方法を使いながらわかりやすく伝えようとする。

「書くこと」は考えを整理し、考えることそのものを鍛えるだけでなく、日常的に書く活動を積み上げていくことで、「論理的思考力を高めていく」ことにつながる。さらに、考えを説明し合ったり、互いの共通点や違いを比べ合ったりすることで、「自他で考える楽しさ」「よりよい考えへの高まり」「友だちの考えのよさ」などを感受することにつながると考える。

※「論理的思考力」とは…… 3つの力でみとる

言いかえる力	抽象・具体の関係を整理する力	(A つまり B) (B たとえば A)
くらべる力	対比関係を整理する力	(A 一方 B) (A それに対して B)
たどる力	因果関係を整理する力	(A だから B) (B なぜなら A)

## 11 経営の重点

### ○ 重点目標達成に向けた具体的取組

#### ① 3つの活動を位置付けた学習づくり

【考えをつくる・書く】—【考えを説明する・比べ合う】—【自分の学び(考え)を振り返る】

- ・ ICTの効果的な活用を位置づけた指導の展開 → 活用場面の工夫
- ・ 板書と学習ノートの連動(思考の見える化)

### ★「書く力」育成のポイント

- |   |
|---|
| <p>① 授業中は学習プリントの安易な活用をせずに、マス目方眼などのノートをできるだけ活用し、具体的な目標や条件を明確にして書かせる。※構想メモを使った図化も効果的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「□分で○文字数」といった数字の条件を示して</li> <li>・テーマに合うう自分の経験を必ず入れて</li> <li>・自分がいちばん伝えたいこと(意見)をはっきりと入れて</li> </ul> <p>② 子どもの発達段階に応じて、思考方法や思考の道筋に応じた表現方法で書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年：順序「はじめに・・・次に・・・そして・・・最後に・・・」</li> <li>・中学年：因果関係「・・・です。その理由は・・・」「・・・になります。だから・・・」</li> <li>・高学年：条件に応じたり類推したりして「もし・・・なら・・・だから・・・となります」「結論をかく」「根拠・理由をかく」「意見・主張をかく」</li> </ul> <p>③ 45分間の授業の中に、一定の「書く時間」を必ず保障するようにする。</p> |
|---|

### ② 国語科を中核とした校内研修の推進

前年度に引き続き、令和5年度も国語科を中心に「**自分の言葉で考え、表現する能力を育成する**」ことを授業改善の中核に据え、各教科の基本となる「話す・聞く・書く・読む」ことの指導の充実を図っていく。

国語科は、様々な事物、経験、思い、考えなどを言葉を使って理解し、どのように表現するのかということを学ぶ教科である。教材の内容を詳細に教えるのではなく、単元を通じた言語活動を通して「言葉で正確に理解しながら、適切に表現する資質・能力を育成する」ことを大切にしていこう。

- |  |
|--|
| <p>○ <b>マスター研修</b>……「国語科」の授業づくりを共通実践として、国語科で付けたい力を明確にして単元を通じた言語活動の最適化を目指す。</p> <p>○ <b>プラス・ワン研修</b>……年間を通して、各自で選択した教科・領域の実践マネジメントを進める。</p> |
|--|

### ③ 子どもの学びと育ちを連続させる学力向上プランの実践

「国語科を中心とした言葉の力の育成」「基礎・基本の確実な定着」「わかる授業づくり」